

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2016年度 東京 SJCD 第2回例会のご案内

初秋の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて来る11月6日に開催されます2016年度東京 SJCD 第2回例会につきましてご連絡申し上げます。今回はインサービストレーニングとしてお二人の先生をお招きしました。

まずは大阪 SJCD の伊藤雄策先生、日本におけるインプラント治療の先駆けともいえる先生には抜歯即時埋入に関する見解をお話ししていただきたいと思っております。

次にアメリカ U.S.C. からフェルールに関する文献などで皆さまもご存じの後藤吉啓先生にご登壇いただき最新の保存基準のアップデートを行っていただきます。

また今回のケースプレゼンテーションは、お招きしたお二人にもご意見を聞きながら、治療計画の立案に関するディスカッションを行いたいと思っております。

皆様お誘い合わせの上、ご参加頂けますようお願い申し上げます。

日時 2016年11月6日（日）受付開始 9:30 / 開演 10:00～17:00

会場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

※入場証について：必ず個人のQRコードをダウンロードしてお持ちくださいませ。

-インサービストレーニング-

「 Immediate implant placement into extraction sites 」

伊藤雄策 先生（伊藤歯科医院 大阪 SJCD）

「 残された歯質の修復 」

後藤吉啓 先生（University of Southern California）

-ケースプレゼンテーション-

「 広汎型侵襲性歯周炎患者におけるインプラント治療 」

山口文誉 先生（山口歯科医院）

『 Immediate implant placement into extraction sites 』

伊藤雄策先生 (伊藤歯科医院 大阪SJCD)

1975年 東京歯科大学卒
1975年 国際デンタルアカデミー勤務
故 東北歯科大学学長 Dr.保母須巳也 に師事
1980年 神戸にて伊藤歯科医院勤務
1995年 新大阪にて伊藤歯科医院開業
故 USC 総合診断科 Dr. Raymond. L. Kim に師事 現在に至る

所属団体	AO 会員	OSI インプラント研修会主幹
	EA0 会員	アストラテックインプラント
	日本補綴歯科学会会員	Ambassador
	日本口腔インプラント学会会員	SJCD 大阪会員・相談役
	日本顎咬合学会指導医	SJCD インターナショナル常任理事
	臨床歯周病学会会員指導医	U. S. C Japan Program 講師

著書

歯周補綴Ⅱ マニアル&クリニック 共著	1992年 クインテッセンス出版
歯周補綴Ⅲ 症例集 共著	SJCD 出版部
ザ・プロビジョナルレストレーションズ	2006年 クインテッセンス出版
アストラテックインプラントのすべて	2012年 クインテッセンス出版
「欠損歯列」の読み方、「欠損補綴」の設計 共著	2013年 クインテッセンス出版

代表文献

歯周組織と調和した審美補綴 No.1, 2	1999年 QDT クインテッセンス出版
ラボコミュニケーション	2000年 QDT クインテッセンス出版
間接模型法によるポンティック形態の構築 No.1, 2	2000年 QZ ドイツクインテッセンス出版
インプラントの上部構造をめぐる No.1, 2, 3	2002年 インプラントロジー クインテッセンス出版
続 インプラントの上部構造をめぐる No.1, 2, 3, 4	2004年 インプラントロジー クインテッセンス出版

抄録

抜歯即時埋入インプラントをロマリダ大学教授 Joseph Y. Kan は、「Tooth Replacement with Implant」すなわち「インプラントによる歯牙置換」と講義している。Dr. J. Kan をはじめとし、この抜歯即時埋入に関して古くより数々の研究がなされており近年ではそのエビデンスに統一見解を見たように思われる。抜歯即時埋入にかかわらずインプラント埋入の基本的な Clinical Guidelines は、

✓ **Depth** ✓ **Thickness** ✓ **Angulation** ✓ **Primary stability** である。

これらの事項をエビデンスベース又は臨床的にクリアーすることが重要となる。

しかし、上顎前歯部における抜歯即時埋入は基本的には Advance な術式であり、時として思わぬ落とし穴に陥ることもある。そんな、失敗症例も供覧していただき、抜歯即時埋入について皆様と共に考察を行いたいと思います。

『 残された歯質の修復 』

後藤吉啓 先生(University of Southern California)

ブレントウッドデンタルセンター院長

University of Southern California(USC)歯学部補綴大学院

Clinical assistant professor

University of Washington (UW)歯学部 Affiliated instructor

現在アメリカ西海岸のロスアンゼルスで補綴専門医としてブレントウッドデンタルセンターを開業。

日本で日本大学歯学部を卒業後、歯科医師免許を取得しその後米国のロスアンゼルス、南カリフォルニア大学歯学部(USC)に入学。卒業後カリフォルニアの歯科医師免許を取得し、ビバリーヒルズにて一般歯科医として勤務。

その後ワシントン州立大学歯学部(UW)の補綴専門医科大学院を卒業、修士号(マスターズDegree)を取得し補綴専門医として認められる。

その後ロスアンゼルスの南カリフォルニア大学(USC)にて補綴、インプラント専門医の養成として補綴大学院の臨床助教授として就任。過去15年以上教鞭をとり世界中に多くのインプラント専門医を送り出している。USC においては卒業後研修インプラントコースの専属インストラクターとして発足当時から多くの臨床医を育ててきた。

またワシントン大学歯学部でも近年臨床講師に就任し両大学で教鞭をとっている。

現在はロスアンゼルスのブレントウッドにて補綴専門医としてインプラント、補綴、口腔外科、歯周治療など幅広く治療を行っている。

過去に25以上の文献をアメリカ、日本にて執筆し本のチャプターの作者として幾つかのプロジェクトに参加。

アメリカ、ヨーロッパ、アジア、中南米など世界中での講演活動にて主にインプラントを使用した補綴治療を得意とし多くの歯科医師に影響力を与えている。

抄録

Part1:根管治療後の残された歯質の修復

インプラントの発展と普及で治療計画の方針が大きく変わってきた現在の歯科医療で歯を残して修復するべきかそれとも抜歯かという選択の基準も大きく変わってきている。個々の歯科医師の経験または価値観で大きく左右されるこの選択は過去の研究、文献または臨床経験が最も大きな選択要素であると思われる。根管治療後の歯質の崩壊は時により厳しい判断を我々に与える。特にインプラントの存在により多くの破折や重度のう蝕のケースなどが抜歯を選択しその後インプラントで修復され問題なく咀嚼能力を回復しているケースがほとんどである。しかしできれば歯牙を残し修復したいと思うのは当然の思いでその選択基準の設定要素をしっかり把握することが我々にとって大切であると理解する。今回の講演ではその選択基準となる幾つかの要素が現在どのように理解され今までの治療と違うのかという点にフォーカスし幾つかの新しい研究結果を交えて演者の思う現在の判断基準、修復を行う場合の最新のマテリアル、術式の選択をくわしく述べさせてもらう。

Part2:先天的欠陥歯の残された歯質の修復(臨床ケースレポート)

先天的に機能障害で生まれてくる歯牙の状態などに遭遇することがある。今回は演者が遭遇した重度の先天性の欠陥歯の修復において5年の歳月をかけたインプラントを取り入れたフルマウスの治療のケースで治療計画、治療内容のみだけでなく術後の経過を12年に渡って残されたケースレポートを紹介する。

『 広汎型侵襲性歯周炎患者に対するインプラント治療 』

山口文誉先生(山口歯科医院)

1998: 昭和大学歯学部卒

2003: 日本歯周病学会専門医所得

2006: 山口歯科医院開院

2011: 日本歯周病学会指導医所得

2014年のメタアナリシスされた **Systematic review** では、歯周疾患の既往はインプラントの長期生存における **Risk Factor** であるとされている。

しかし、インプラント治療前後において歯周炎の炎症が十分にコントロールされえていれば、歯周炎でない患者に対するインプラント治療と同等の良好な臨床結果を得ることができる事も解っている。

では、歯周炎に対しさらに感受性の強い『広汎型侵襲性歯周炎患者に対するインプラント治療』はどうだろう？

広範型侵襲性歯周炎患者の場合、初診時の段階で多くの歯が保存困難であることも少なくなく、患者の年齢も比較的若いことからインプラント治療による固定性補綴物を希望される事も多い。

生存率・成功率はどうであろうか？またどのような予防処置をとる事ができるのだろうか？知りたいところである。

侵襲性歯周炎の存在比率は数%と少ないことからそのインプラント治療に対する報告は少ないことは容易に予想がつくが、現在までに発表された入手可能な報告を基に『広汎型侵襲性歯周炎患者に対するインプラント治療』に関する症例発表をさせて頂き、このテーマに関し考えてみたいと思う。

〈 オンライン質問ツール 〉

「会に参加していて疑問に思ったが大会場での質問は、はずかしい……」

という方のために。

今回もオンライン質問ツールを導入します。

演者に対しての疑問や不明点をオンラインにて集計し、回答を頂けます。

QR コードを配布致しますので、当日、QR コードからアクセスして頂きご質問下さい。

アクセス対象端末は

- ・ PC
- ・ スマートフォン
- ・ タブレット

以上の 3 種になります。

【事前準備のお願い】

Android 端末には予め QR コードリーダーがインストールされておりますが、
iphone・ipad をお使いの方は、事前に App Store にて「QR コード」と検索し
QR コードリーダーをインストールしておいて下さい。